

令和8年用すもも病害虫防除基準

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度(水100ℓ当たり薬量)	収穫前使用日数	総使用回数	10a当たり散布量	注意事項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
～①落葉休眠芽前期		1. 水(98ℓ)				1. 石灰硫黄合剤10倍(発芽前、-)を使用する場合は、この防除の7日前まで散布を終わらせる。 2. 温暖な日を選び主幹部にもかかるようにていねいに散布する。また、かかりにくい場所では手散布を実施する。 3. ふくろみ病対策としてトレノックスフロアブル500倍(14日前まで、3回以内)を加用してもよい。 4. ハーベストオイルに替えてスプレー油50倍(発芽前、-)を使用してもよい。	
	カイガラムシ類幼虫	2. アプロードフロアブル1,000倍(100mℓ)	14日前まで	2回以内	300～400ℓ		散布日月日散布量ℓ
	カイガラムシ類	3. ハーベストオイル50倍(2ℓ)	発芽前	-			
開黒特花病対別前策	黒斑病	1. ICボルドー41230倍(3.3kg)	-	-	400ℓ	1. 黒斑病が多発傾向にあるので本防除を徹底する。また、密度低減を図るために被害葉や被害果は見つけしだい摘除し、土中深く埋め園内地表面に放置しない。	散布日月日散布量ℓ
開シジ特花病対別前策	ナシヒメシンクイスモモヒメシンクイ	1. ナシヒメコン100本／10a	-	-	-	1. 下記交信かく乱剤の使用上の注意事項を参照し、開花前に設置する。	設置日月日設置量本
②満開3日後		1. 展着剤(ハイテンパワー)10,000倍(10mℓ)				1. 灰星病予防の重要な時期にあたるので、時期を失わないよう散布する。 2. 訪花昆虫保護のため隣接園の飛散には十分注意し、ハチの活動の少ない早朝に散布する。 3. ハマキムシ類の発生する園ではエクシエルSE2,500倍(前日まで、3回以内)を散布する。	
	灰星病	2. ロブラー水和剤1,500倍(66g)	前日まで	3回以内	400ℓ		散布日月日散布量ℓ
～③巣箱撤去上旬	灰星病	1. ベルクートフロアブル2,000倍(50mℓ)	3日前まで	3回以内		訪花昆虫を保護するため、今回の防除は巣箱を撤去してから散布する。	
	黒斑病	2. マイコシールド2,000倍(50g)	21日前まで	3回以内	400ℓ	1. ふくろみ病の被害果は見つけしだい取り、土中深く埋める。 2. 黒斑病は雨により感染するので、降雨前に防除する。 3. 黒斑病の発生が多い園では、マイコシールドに替えて、アグリマイシン-1001,500倍(30日前まで、2回以内)を使用してもよい。	散布日月日散布量ℓ
	アブラムシ類シンクイムシ類	3. モスピラン顆粒水溶剤劇2,000倍(50g)	前日まで	3回以内			
豆粒実大の大きさが中だるま下生頃で旬		1. 展着剤(ハイテンパワー)10,000倍(10mℓ)				1. ダイアジノン水和剤34劇に替えて、アグロスリン水和剤劇1,000倍(前日まで、2回以内)を使用してもよい。	
	黒斑病	2. マイコシールド2,000倍(50g)	21日前まで	3回以内			散布日月日散布量ℓ
	灰星病(環紋葉枯病)	3. ナリアWDG2,000倍(50g)	前日まで	2回以内	500ℓ		
	アブラムシ類シンクイムシ類	4. ダイアジノン水和剤34劇1,000倍(100g)	21日前まで	4回以内			
前回散布月10日後旬		1. 展着剤(ハイテンパワー)10,000倍(10mℓ)				1. 黒斑病が多い園ではマイコシールド2,000倍(21日前まで、3回以内)を使用する。 2. モベントフロアブルを使用した場合、同系統のダニゲッターフロアブルは使用しない。 3. コスカシバの発生が多い園では、6月上旬にスカシバコンL40～100本／10aを設置する。	
	灰星病	2. ロブラー水和剤1,500倍(66g)	前日まで	3回以内	500ℓ		散布日月日散布量ℓ
	シンクイムシ類	3. テッパン液剤2,000倍(50mℓ)	前日まで	2回以内			
	カイガラムシ類アブラムシ類ハダニ類	4. モベントフロアブル2,000倍(50mℓ)	7日前まで	3回以内		シンクイムシ類の被害果は見つけしだい取り、土中深く埋め、園地内地表面に放置しない。	
⑥6月中旬	灰星病	1. ベルクートフロアブル2,000倍(50mℓ)	3日前まで	3回以内		ハダニ類の多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを使用する。 • スターマイトフロアブル2,000倍(前日まで、1回) • カネマイトフロアブル1,000倍(3日前まで、1回) • ダニオーテフロアブル2,000倍(前日まで、1回)	
	カメムシ類アブラムシ類	2. ダントツ水溶剤2,000倍(50g)	3日前まで	3回以内	500ℓ	1. 例年ナシヒメシンクイ・スモモヒメシンクイが多い園では、6月下旬～7月上旬にナシヒメコン50本／10aを追加設置する。	散布日月日散布量ℓ
品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の収穫前使用日数を厳守する。							
収穫大石早前生	灰星病	1. ナリアWDG2,000倍(50g)	前日まで	2回以内			
	アブラムシ類シンクイムシ類	2. スカウトフロアブル劇2,000倍(50mℓ)	前日まで	3回以内	500ℓ		散布日月日散布量ℓ

発行：JAさがえ西村山・さがえ西村山すもも部会

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度(水100ℓ当たり薬量)	収穫前使用日数	総使用回数	10a当たり散布量	注意事項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
⑧ 収穫大直後 星病	灰星病	1. スコア顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで	2回以内	500ℓ	1. シンクイムシ類の発生が多い園ではディアナWDG 5,000倍(前日まで、2回以内)を追加で散布してもよい。	散布日 月日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類	2. エクシレルSE 2,500倍 (40mℓ)	前日まで	3回以内			
散布時期	適用病害虫	中生種 中・晚生種 晚生種	10a当たり散布量	注 (収穫前使用日数、総使用回数)	事項	防除履歴	
⑨ 8月上旬	灰星病	1. カナメフロアブル劇 4,000倍 (25mℓ) (前日まで、3回以内)	500ℓ	1. ハダニ類の発生の多い園では、コロマイト乳剤1,000倍(前日まで、1回)を単剤で使用する。 2. すす点病の多い園では、かかりむらのないように防除を実施する。 3. 降雨が続く場合、フリントフロアブル散布後、オーシャインフロアブル3,000倍(前日まで、3回以内)を使用する。 4. オーシャインフロアブルはうり科の野菜に薬害の恐れがあるので注意する。	散布日 月日 散布量 ℓ		
	アブラムシ類 (シンクイムシ類)	2. バリアード顆粒水和剤劇 2,000倍 (50g) (前日まで、2回以内)					
⑩ 8月中旬下旬	灰炭疽病	1. フリントフロアブル25 2,000倍 (50mℓ) (前日まで、2回以内)	500ℓ	1. パレード15フロアブル 2,000倍 (50mℓ) (前日まで、2回以内)	散布日 月日 散布量 ℓ		
	シンクイムシ類	2. ディアナWDG 5,000倍 (20g) (前日まで、2回以内)					
⑪ 9月上旬	灰星病		500ℓ	1. モスピラン顆粒水溶剤劇 2,000倍 (50g) (前日まで、3回以内)	散布日 月日 散布量 ℓ		
	アブラムシ類 シンクイムシ類						
⑫ 9月中旬下旬	灰星病		500ℓ	1. インダーフロアブル 5,000倍 (20mℓ) (前日まで、4回以内)	散布日 月日 散布量 ℓ		
	シンクイムシ類						
⑬ 9月収穫後	黒斑病	1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)	500ℓ	1. 黒斑病が多発傾向にあるので本防除を徹底する。	散布日 月日 散布量 ℓ		
	コスカシバ	2. ICボルドー412 30倍 (3.3kg)					
	コスカシバ	3. フェニックスフロアブル 4,000倍 (25mℓ)					
前黒斑特 14日別 散布病 後策	黒斑病	1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)	500ℓ	1. 黒斑病多発園(果実に被害のある園)では本防除を徹底する。 2. 黒斑病が特に多い園では、今回の防除14日後にICボルドー412 30倍(−, −)を更に使用してもよい。	散布日 月日 散布量 ℓ		
	黒斑病	2. ICボルドー412 30倍 (3.3kg)					
萌芽休眠期	コスカシバ キクイムシ類	1. ガットキラー乳剤 100倍 (1ℓ)	休眠期 (落葉後～萌芽前)	1回	200ℓ		散布日 月日 散布量 ℓ
⑮ 休眠期		1. 水 (90ℓ)	400ℓ	1. 例年ふくろみ病の発生が見られる園では、本防除を徹底するとともに、散布にあたっては、枝先から洗うように丁寧にたっぷり散布する。	散布日 月日 散布量 ℓ		
		2. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)					
	越冬病害虫 (ふくろみ病)	3. 石灰硫黄合剤 10倍 (10ℓ)	発芽前	−			

す
も
も

耕種的防除

全般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達しやすいようにする。
灰星病	1. 被害花(果)や被害葉、被害枝は見つけしだい摘除し、土中深く埋める。 2. 枯死枝やミイラ果は、見つけしだい摘除し、適切に処分する。
黒斑病	1. 被害葉や被害果は、見つけしだい摘除し、土中深く埋め園内地表面に放置しない。 2. 風の強い園では、防風対策を徹底する。 3. 樹勢が弱いと発生が多くなるので適切な樹勢の維持に努める。 4. 降雨時の草刈りは控え、地際まで草刈りをしないように管理を実施する。

すもも施肥基準(成木: 10a当たり)

品目・目標収量	肥料名	施肥量(kg)	施肥時期	N	P	K
すもも 2,000kg 基肥 いずれか	礼肥 燐硝安加里S248 (わかみどり)	10kg	収穫直後	2.0	0.4	0.8
	フレッシュフルーツ有機70	80kg	8月下旬～9月上旬	8.0	4.0	1.6
	フレッシュフルーツ有機40	80kg	8月下旬～9月上旬	8.0	3.2	1.6

未結果樹の防除

散布時期	適用病害虫	使用薬剤	収穫前使用日数	総使用回数
休眠期	越冬病害虫	石灰硫黄合剤	10倍	発芽前
4月中旬～下旬	黒斑病	ICボルドー412	30倍	—
5月上旬～6月上旬 (巢箱撤去後)	アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤劇	2,000倍	前日まで
	黒斑病	ICボルドー412	30倍	—
8月中旬～9月中旬	アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤劇	2,000倍	前日まで
	ケムシ類	ケムシ類が多い場合はフェニックスフロアブル	4,000倍 (前日まで・2回以内)	
9月下旬～10月上旬	黒斑病	ICボルドー412	30倍	—
休眠期	コスカシバ キクイムシ類	ガットキラー乳剤	100倍	休眠期 (落葉後～萌芽前)
				1回

交信かく乱剤(性フェロモン剤)の使用上の注意事項

- 設置場所は、目通りの高さに8割、2割を上部に、園内均一に設置する。
- できるだけ地域全体で設置する。
- 傾斜上部の設置割合を1～2割多くする。
- 園周辺の立木や、支柱などにも設置する。
- 防風ネットなどを利用する。